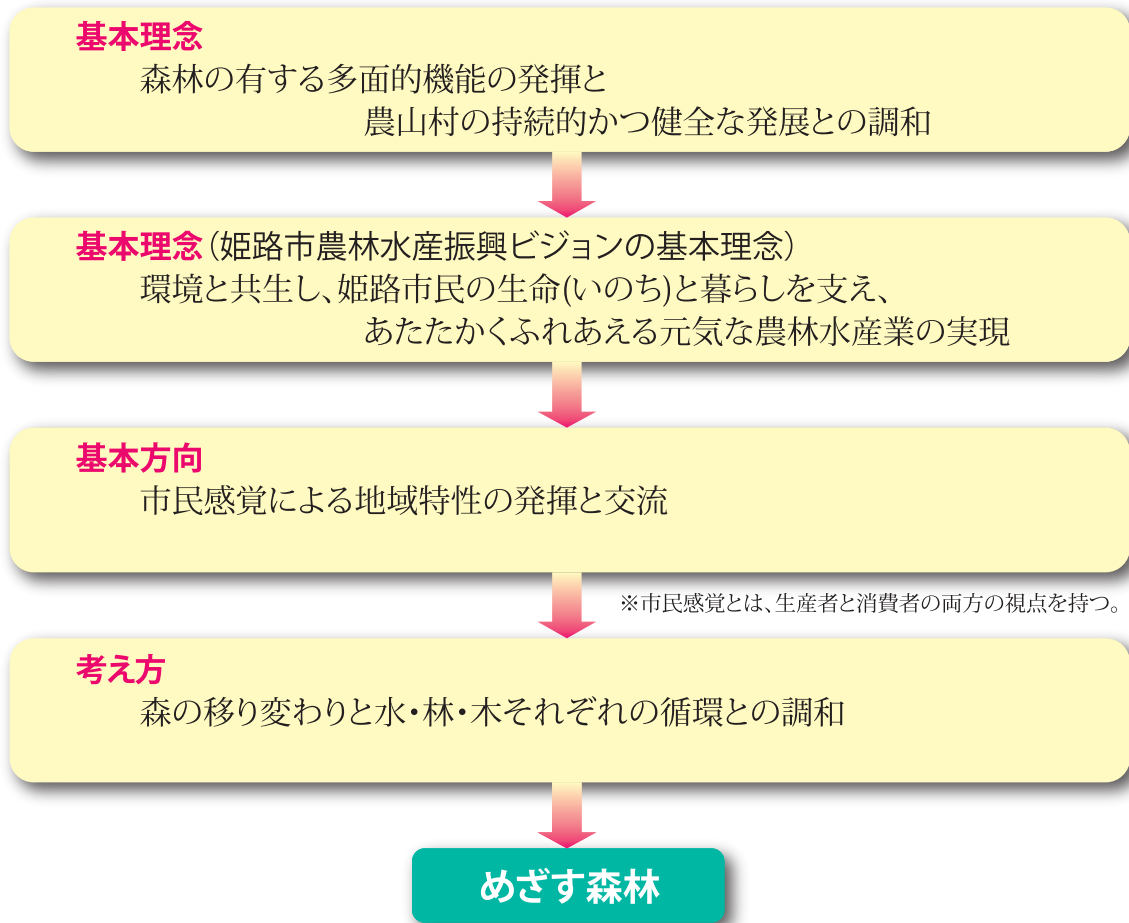


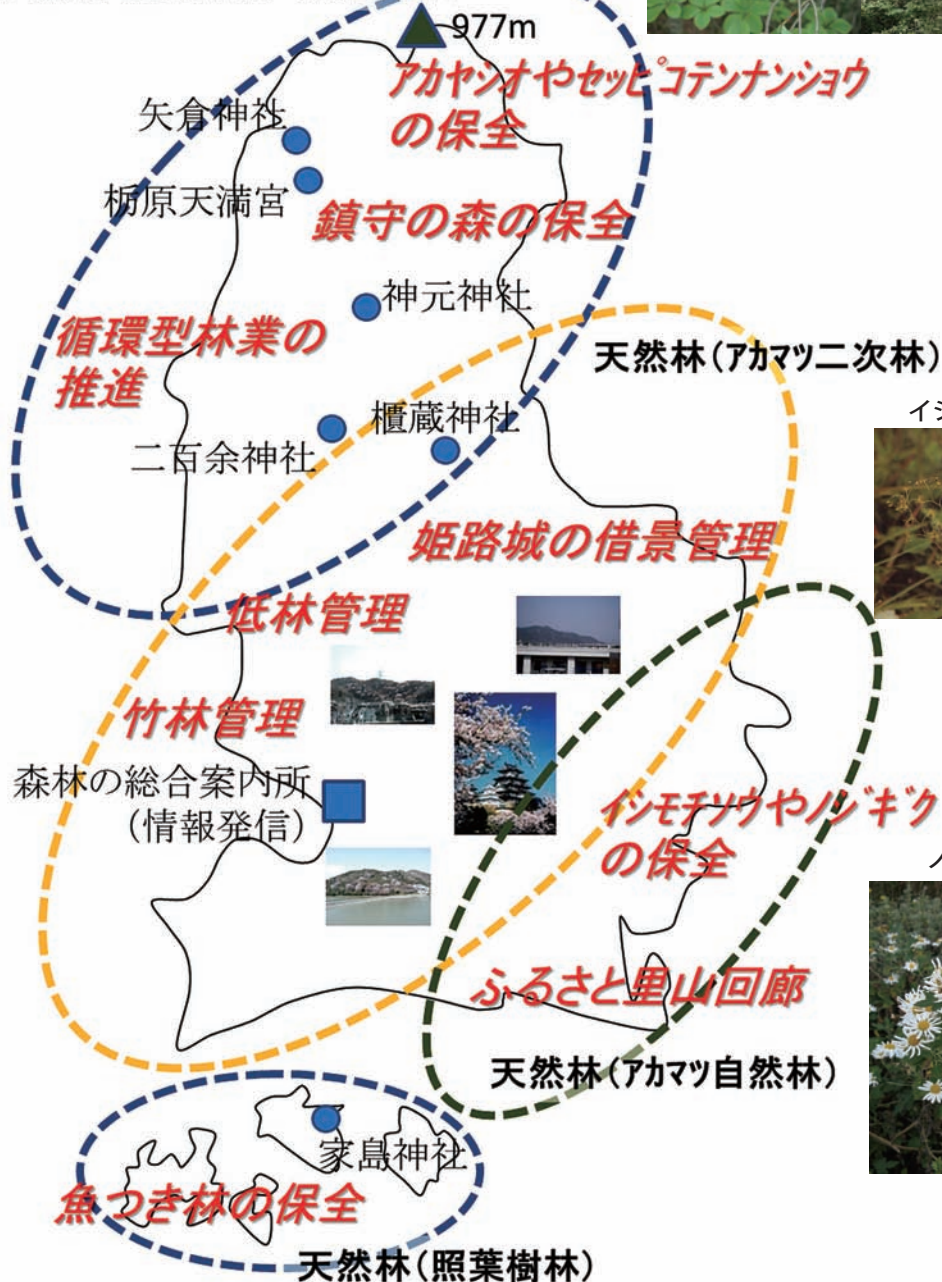
第3章 将来像

構想の基本理念等を次のとおりとする。



現在の森林の姿	管理方法	めざす森林		
		将来の森林の姿	具体的な姿	人の関わり方
人工林(スギ、ヒノキ)	5～10年毎に間伐	スギ、ヒノキ林	立木間隔4～6m 下層植生が豊富	生業の森 防災の森 共生の森 学びの森
		針広混交林		
天然林(マツ、竹、広葉樹)	低林管理 高林管理 自然植生遷移 (照葉樹林)	照葉樹林 ヤマザクラ景観保全林 (姫路城借景) アカマツ二次林 アカマツ自然林	生物多様性が豊か (40～60種の植物) 希少生物の保護	学びの森 ふれあいの森 (ふるさと里山回廊) 共生の森 (野生動物共生林、 魚つき林) 景観の森

1stステージ：地域の特色を生かす 人工林・天然林(夏緑樹林・照葉樹林)



アカマツ二次林：アカマツが優占する植生遷移の途上にある樹林です。放置すると遷移が進み、姫路市内の多くのアカマツ二次林は、やがては照葉樹林になる。

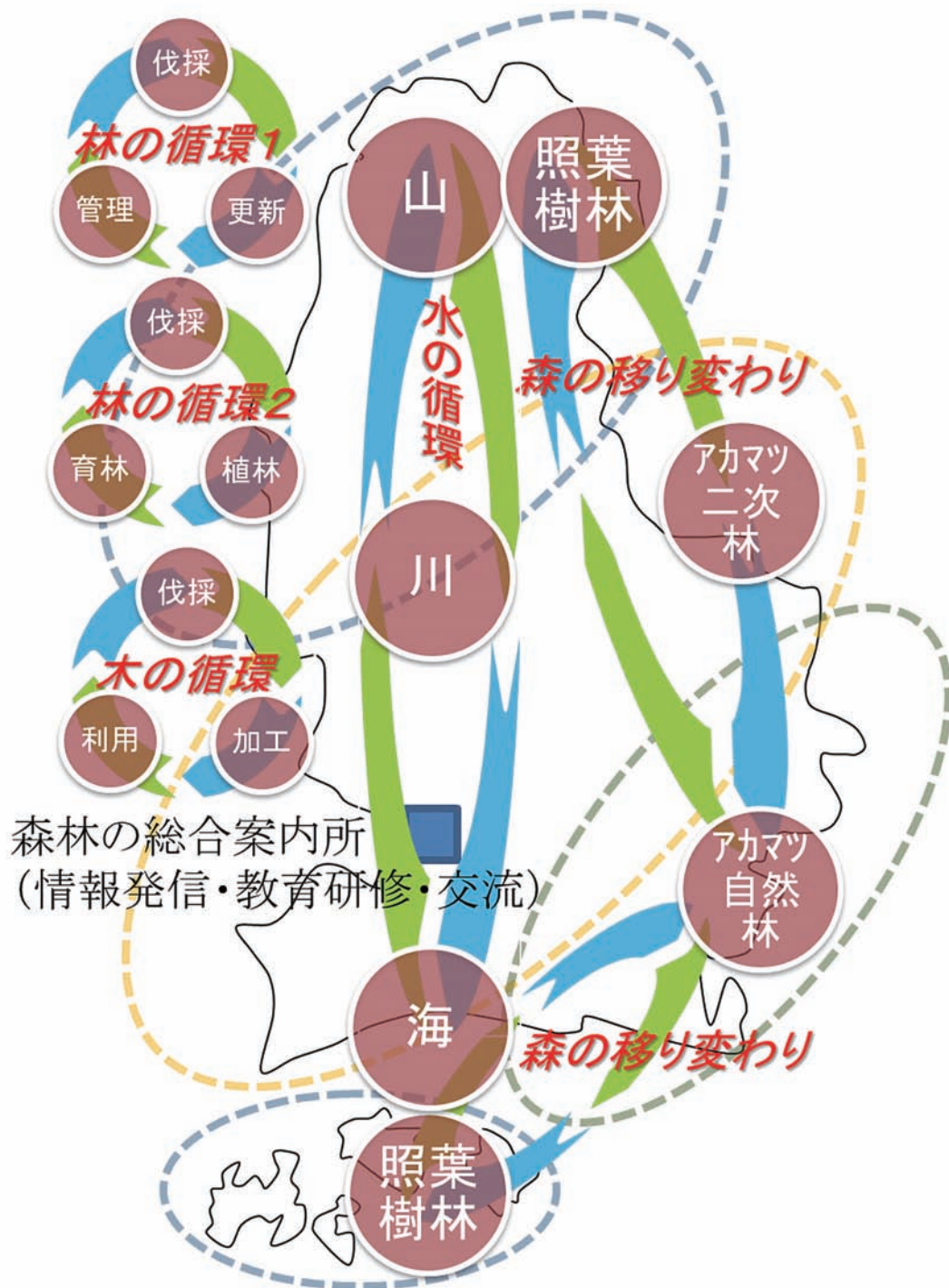
アカマツ自然林：尾根や崖などの露岩地に成立しているアカマツ林で、主に姫路市の東部に位置している。貧栄養で土壌層の薄い立地環境のために、植生遷移がほとんど進まない自然林に近い樹林です。

夏緑樹林：秋には落葉する葉をつける広葉樹により構成される樹林です。コナラ林やアベマキ林などがある。

照葉樹林：四季を通じて、緑の葉をつける広葉樹により構成される樹林です。シイ・カシ林などがある。

魚つき林：漁業者の間には、海岸近くの森林が魚を寄せるという伝承があり、そのため海岸林や離れ小島の森林を守って来た森林をいう。

2ndステージ:地域をつなぎ、循環させる



森の移り変わり：照葉樹林、アカマツ二次林、アカマツ自然林などの植生遷移（P 14参照）

水の循環：山から海まで川を通じて水が流れ、海から蒸発した水が山に雨を降らすという循環

林の循環：森林育成の循環のことで、主に人工林の伐採、更新、管理の循環（間伐の繰り返し）と伐採、植林、育林の循環

木の循環：森林資源の循環のことで、主に人工林の伐採、加工、利用の循環

めざす象徴的な森林

スギ人工林



天然林（照葉樹林）

天然林高林管理



天然林低林管理

竹 林



天然林高林管理：落葉広葉樹の高木を保全するため、照葉樹、ネザサ、ツル植物を伐採する管理方法
天然林低林管理：燃料革命以前の森林のすがたを目標とし、一定期間（8～20年程度、地域によって異なる）ごとに伐採を繰り返す管理方法で、低林、パッチワーク状の景観となる。